

・学校の概要（平成15年4月現在）

学校名	青森市立荒川小学校								
学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	1	1	1	1	1	1	1	7	12
児童数	26	29	33	35	36	29	2	190	

・実践研究の概要

1. 主題

<p>学ぶ意欲を持ち、主体的に学習に取り組む児童の育成 ～評価を生かした指導を通して～</p>
---

2. 内容と方法

(1) 実施学年・教科

<p>・全学年・算数科 子どもの理解度に差が出やすい教科であるため。 これまでの研究成果をふまえ、さらに研究を深めるため。</p>
---

(2) 年次計画

<p>平成 14 年度</p>
-------------------------

<p>テーマ 学ぶ意欲を持ち、主体的に学習に取り組む児童の育成 ～算数科の指導を通して～</p> <p>仮説 既習事項や経験を手がかりとすることによって、児童は追求意欲を持って自分の考えを深めていくのではないか。 算数的活動を取り入れ、個に応じた支援の工夫をすることによって、児童の活動が主体的になり、基礎的・基本的内容の定着を図ることができるのではないか。 他人にわかるように表現する場を設定し、いろいろな観点から見直しすることによって、児童がより豊かに表現できるようになるのではないか。</p> <p>研究内容・方法 全学年の算数の学習でチームティーチングを取り入れ、授業実践を通して研究を深めていく。</p> <p>1 個に応じた指導のための工夫・改善 (1) 基礎的・基本的な内容の定着を図る指導 ・課題別学習や習熟度別学習、個別学習等の工夫 ・朝の指導の時間の充実</p>
---

- (2) 主体的な学習活動をめざす指導
  - ・自力解決での複数の指導者による支援の工夫
- (3) 表現活動の工夫
- 2 評価を生かした指導の工夫・改善
  - (1) 児童の実態を把握した指導
  - (2) 評価規準・評価基準を取り入れた指導計画の作成
- 3 個に応じた指導のための教材の開発
  - (1) 習熟の程度に応じた指導の工夫
  - (2) 発展・補充のための教材の工夫
- 4 中学校との連携指導の導入
  - ・特に算数・数学を通しての授業実践

## テーマ

学ぶ意欲を持ち、主体的に学習に取り組む児童の育成

～評価を生かした指導を目指して～

## 仮説

既習事項や経験を手がかりとすることによって、児童は追求意欲を持って自分の考えを深めていくのではないかと。

活動や体験を取り入れ、個に応じた支援の工夫をすることによって、児童の活動が主体的になり、学ぶ力を育てることができるのではないかと。

他人とのかかわりやふれあいの中で、表現の手段・方法を数多く体験することによって、児童がより豊かに表現できるようになるのではないかと。

## 研究内容・方法

全学年の算数の学習でティームティーチングを取り入れ、授業実践を通して研究を深めていく。また、他教科、領域との有機的なつながりを持たせて研究を進めていく。

- 1 個に応じた指導のための工夫・改善。
  - (1) 基礎的・基本的な内容の定着を図る指導
    - ・課題別学習や習熟度別学習、個別学習等の工夫
    - ・既習内容の活用を図る指導
    - ・朝の指導時間の充実→(朝、読書タイム。帰り、ドリルタイム)  
(朝は、読解力の向上と学習リズム作り。帰りは、計算力の向上のため。)
    - ・(全校算数)→(基礎的・基本的な計算力の向上。興味・関心。)
  - (2) 主体的な学習活動をめざす指導。
    - ・活動や体験の充実(「算数ひろば」の充実)
    - ・自力解決での複数の指導者による支援の工夫
  - (3) 表現活動の工夫と充実
    - ・コミュニケーション能力の育成
- 2 評価を生かした指導の工夫・改善。

- (1) 児童の実態を把握した指導。
  - ・学力診断テストの分析と活用
  - ・評価規準・評価基準を取り入れた指導計画の作成
- (2) 人材活用の工夫
- 3 個に応じた指導のための教材の開発
  - (1) 習熟の程度に応じた指導の工夫
  - (2) 発展・補充のための教材の工夫
- 4 中学校との連携指導の導入
  - (1) 算数・数学を通しての授業実践
    - ・学習会の実施、人的交流の推進
  - (2) 学力分析による指導の重点化

## テーマ

学ぶ意欲を高め、主体的な学習の充実を目指す指導法の研究  
 ～発展的な学習・補充的な学習の指導を通して～

### 仮説

既習事項や経験を活用することによって、基礎的・基本的な指導内容の定着を図ることができ、追求意欲を持って取り組むことができるのではないかと。

補充的な教材・教具、発展的な教材を活用し、個に応じたきめ細かな支援をすることによって、「できる喜び」「学ぶ楽しさ」を味わうことができ、主体的に学習に取り組むことができるのではないかと。

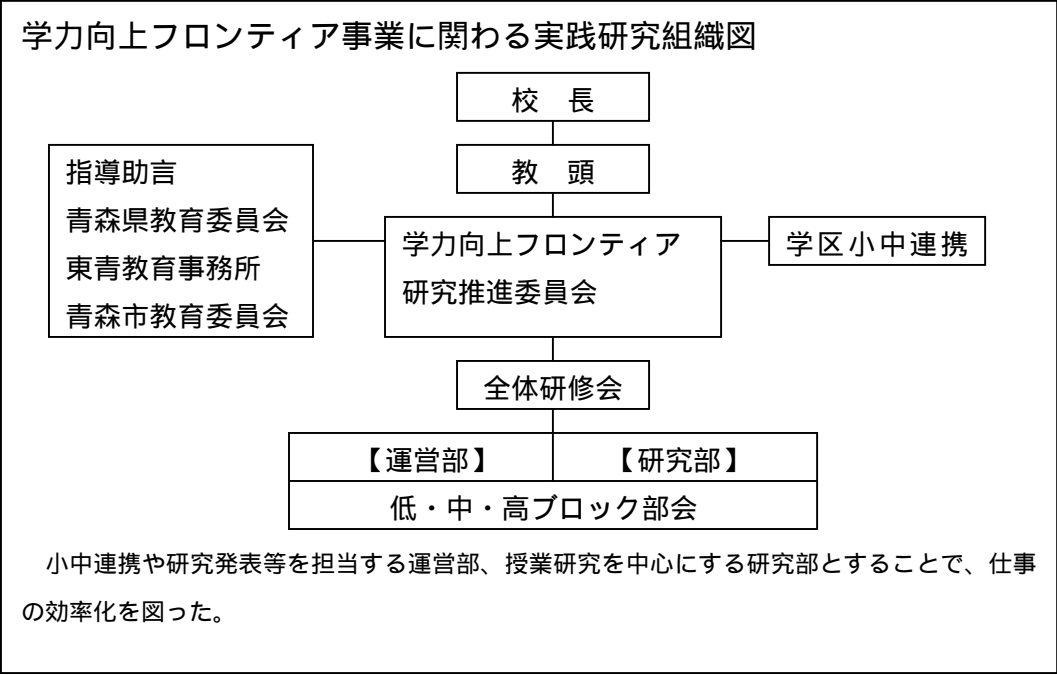
### 研究内容・方法

全学年の算数の学習でチームティーチングを取り入れ、授業実践を通して研究を深め充実させる。また、他教科、領域との有機的なつながりを持たせて研究を深める。

- 1 基礎的・基本的な内容の定着を図る指導
  - ・複数の指導者による支援の工夫  
(少人数指導、習熟度別学習)
  - ・既習内容の活用を図る指導
  - ・全校算数
  - ・ドリルタイムの充実
- 2 主体的な学習活動をめざす指導
  - ・活動や体験の充実(「算数ひろば」の充実)
  - ・補充的、発展的な教材や教具
  - ・課題別学習、コース別学習の工夫
- 3 表現活動の工夫と充実
  - ・コミュニケーション能力の育成
- 4 評価を生かした指導の工夫・改善
  - ・指導過程の工夫・改善

- ・学力診断テストの分析と活用
  - ・評価規準、評価基準を取り入れた指導計画の作成
  - ・学習評価、評価補充簿の活用
- 5 中学校や家庭・地域との連携指導
- ・算数（数学）の授業実践及び学習会の実施、
  - ・人的交流の推進
  - ・学力分析、生徒指導などの指導の重点化
  - ・基本的な生活習慣の定着

(3) 研究体制



・平成15年度の成果及び課題

(1) 成果（3年生以上は、その学年児童の昨年と今年の記録）

ア 学力診断テスト（算数：CRT）の結果から向上した観点（単位は%）  
 A（十分満足）とC（努力を要する）の割合からは、次の通りである。

・関心意欲の面で

	1年		2年		3年			4年		
	今年	全国	今年	全国	昨年	今年	全国	昨年	今年	全国
A	85	86	93	87	88	96	86	86	88	72
C	0	3	4	2	0	4	4	8	6	6
	5年			6年						
	昨年	今年	全国	昨年	今年	全国				
A	79	85	88	86	74	76				
C	3	6	3	3	4	6				

・ 数学的な考え方の面で

	1年		2年		3年			4年		
	今年	全国	今年	全国	昨年	今年	全国	昨年	今年	全国
A	88	81	82	60	45	48	54	86	64	41
C	0	4	4	12	18	4	19	6	15	31
	5年			6年						
	昨年	今年	全国	昨年	今年	全国				
A	79	80	34	59	36	30				
C	9	6	39	28	20	34				

・ 表現処理の面で

	1年		2年		3年			4年		
	今年	全国	今年	全国	昨年	今年	全国	昨年	今年	全国
A	94	91	96	88	94	76	74	97	85	70
C	0	3	4	3	3	0	8	0	3	12
	5年			6年						
	昨年	今年	全国	昨年	今年	全国				
A	91	57	57	76	80	72				
C	0	6	15	10	4	11				

・ 知識理解の面で

	1年		2年		3年			4年		
	今年	全国	今年	全国	昨年	今年	全国	昨年	今年	全国
A	100	83	93	76	67	86	78	92	88	78
C	0	4	4	7	3	0	8	0	3	6
	5年			6年						
	昨年	今年	全国	昨年	今年	全国				
A	97	88	75	90	60	65				
C	0	9	7	3	4	8				

( 考察 )

今年度の結果と昨年度及び全国平均を比べてみると、Aの段階の児童が増え、Cの段階の児童が減っているのが分かる。今年度取り組んできた学力向上フロンティアの成果と思われる。

イ 個に応じた指導のための指導方法・指導体制の工夫改善

- ・ 既習内容の活用を図る指導を通して、基礎的・基本的な内容の定着が図れ、学習に意欲的に取り組める児童がさらに増えた。
- ・ 朝の読書タイムについては、低学年が意欲的(楽しい)になった。中学年では、調べ学習の機会が多くなり、図書室の利用目的が変化しつつあるが本の貸し出しが増えた。高学年では、朝の生活リズムを整え、集中する時間として有効である。

- ・帰りのドリルタイムの充実により、個のつまずきを把握したり、習熟を図ったりすることができ、「できる喜び」を教えることができた。
- ・TTによる課題別学習や個別学習等を通して、個が生き、個人差に対応した学習に取り組めるようになった。また、個々の課題を把握しやすくなった。
- ・「算数ひろば」を設置することによって、児童が楽しみながら数量感覚や図形感覚を養うことができるとともに、「できた」という自信を持ち、授業でその経験を生かすことができた。また、授業で使える掲示物を揃えておくことで興味・関心を持ち、既習の振り返りの場としても有効であった。
- ・全校算数では、全校児童が一同に集まり学習環境を変えることで、よい意味で緊張感が生まれ集中力と学習意欲が高められた。また、授業の後半に楽しめる教材を用意することで興味・関心を高めることができた。

#### ウ 評価を生かした指導の改善

- ・学力診断テストの分析と活用により、重点的に指導すべき学習内容や個の指導の充実を図ることができた。
- ・授業の始めとまとめで確認テストを実施することで、学習状況がよく分かり、個々の支援に役立てることができた。
- ・座席表（チェックカード）の活用により、授業における児童の評価が図ることができた。
- ・評価規準を作成することで到達目標がはっきりし、手立てを（支援を）考えやすくなった。

#### エ 個に応じた指導のための教材・教具の開発

- ・発展、補充のプリント作り。（ステップ学習プリント）
- ・確認プリントの作成。（全学年、評価規準 B の計算問題を作成。）
- ・楽しみながら数量関係を鍛えるプリントの作成。  
（10になる数、陣取りゲーム、魔方陣、大きさ比べ等々）
- ・楽しみながら図形感覚を鍛えるプリントの作成。  
（パターンブロックやタングラムのタスクカード等々）

#### オ 中学校との連携指導の導入

- ・小中の教師による TT の授業を行うことで、児童の中学校への不安（学習指導）を少し取り除くことができた。（別紙 ）

### （2）課題

#### ア 学力診断テスト（算数：CRT）の結果から

- ・学習が進んでいる児童へ、発展的な問題等を取り組ませることでさらに習熟を図ると共に、評価規準 B の児童への支援を考えることが大切である。
- ・高学年は全国平均でも落ち込みが見られるが、基礎・基本の繰り返しをしっかりと行い、定着を図りたい。



【新規校・継続校】  15年度からの新規校  14年度からの継続校

【学校規模】  6学級以下  7～12学級

13～18学級  19～24学級

25学級以上

【指導体制】  少人数指導  T,Tによる指導

一部教科担任制  その他

【研究教科】  国語  社会  算数

理科  生活  音楽

図画工作  家庭  体育

その他

【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】  有  無

【取組事例としての紹介したいポイント】

- ・ 基礎的・基本的な計算力の向上と興味・関心を高めるための「全校算数」と活動や体験の充実のための「算数広場」



## 別紙資料

中学校の先生に指導を受けたことについて（実施28名）

ア 楽しく学べたか                    A 28, B 0, C 0

イ 教え方は良かったか            A 26, B 2, C 0

ウ 感想（抜粋）

- ・ 入学前にどんな感じなのかが分かってよかった。
- ・ 最初はもっと難しく教えるのかと思ったが、分かりやすくて優しかったので安心した。
- ・ 中学校の先生は怖いイメージだったけど、安心した。
- ・ 小学校用に分かりやすい説明の仕方や言葉づかいでよかった。
- ・ いつもより楽しくて、分かりやすかったので中学校へ行っても安心して勉強ができる。
- ・ 中学生になっても数学をがんばれると思った。

学力向上フロンティア中間発表会のアンケートから

- ・ 一人ひとりの子を「100点を取れる子」ではなく「算数が好きになる子」「算数で自信を持たせ生き生きと学習できる子」に育てようとする研究姿勢が授業はもちろん、掲示物、算数ひろばから、とてもよく伝わってきました。
- ・ 授業始めの確認テストを行うことで、児童が前時までの活動を思い出し、本時の取り組みに対してスムーズに関わっていったと思います。また、指導する側も、前時までの内容をよく理解していない児童を前もって把握することができ、効果的に支援することができていると思いました。終了時の確認テストでは、本時の内容を理解しているか否かの確認もできるので非常に良かったと思います。段階別のプリントも、児童にとって理解しやすく、「あの色のプリントまでは」という意欲につながっていたと思います。

西根町小・中学校教育研究会「県外視察研修報告書」から

- ・ 荒川小学校の研究の取り組みでまず注目したいことは、「学力」を明確に捕らえている点である。各教科で身に付けた力を「生かす」、「活用する」、「問題解決に向かわせる」力を最終目標に掲げ、その学力を支えるものとして、生活習慣や家庭や地域の教育力を大切にしている点に学ぶ所が多い。（中略）算数のドリルやプリントを帰りの会後行うというのは新鮮だった。子供たちの意欲がそれだけ高く、放課後の時間が有効に活用されていると感じた。また、その時間を利用して個別の学習が行われたり、一人一人の学習の達成状況やつまずきをいち早く確認できるメリットもある。